

**【港南区】令和2年第1回区づくり推進横浜市会議員会議
議事録**

開催日時	令和2年2月5日（水） 午後2時30分～4時00分
場 所	港南区役所5階 特別会議室
出席者	<p>【座長】梶尾明議員</p> <p>【議員：4名】田野井一雄議員、みわ智恵美議員、瀬之間康浩議員、安西英俊議員</p> <p>【港南区：30名】今富雄一郎区長、齋藤紀子副区長 山田洋福祉保健センター長、 馬淵勝宏福祉保健センター担当部長、 井深清港南土木事務所長 ほか関係職員</p>
議 題	<p>令和2年度個性ある区づくり推進費について（資料1） （塩田総務課長説明）</p>
発言の旨	<p>安西議員：新型コロナウイルス感染防止で、市は対策本部を設けたが、区の状況はどうか。</p> <p>塩田総務課長：横浜市緊急事態等対処計画に基づき、横浜市感染症対策警戒本部が1月31日16時に設置され、それに伴い同日、副区長を本部長とした港南区感染症対策警戒本部を設置して、連絡体制を確立しました。</p> <p>また、2月3日月曜には区本部メンバーを集め、体制確認を行い、翌4日には区本部会議を開催して、市本部会議の内容を共有しました。</p> <p>その他、区庁舎の出入口やエレベーターホールにアルコール消毒液を設置し、感染防止チラシも掲示して来庁者に注意喚起しました。また、区のホームページにリンクを貼って、健康福祉局のホームページがすぐにご覧いただけるようにしました。</p> <p>畑岸福祉保健課長：区民や医療機関からの相談については、福祉保健課で対応しています。1月23日から本日午前までの港南区への問合せ件数は、実数としては29件です。相談内容は、コロナウイルスの症状や検査対象などで延べ49件です。</p> <p>安西議員：いろいろな不安があり、SNSでも様々なデマが流れているので、正しい情報を迅速に出せるよう対応してもらいたい。引き続</p>

き、情報共有をお願いします。

次に、災害に強いまちづくり事業について、ミストファン整備の箇所数はある程度決まっているのか。

塩田総務課長：ミストファンは、31カ所の地域防災拠点に配置します。小さいお子さんがいる小学校から導入し、今年度は11カ所、2年度は10カ所、3年度も10カ所の合計31カ所で、整備を進めていく予定です。

安西議員：次に、切れ目のない支援について、母子保健コーディネーターが全区に配置されることになったが、港南区はどのような対応をするのか。

平野こども家庭支援課長：母子保健コーディネーターは来年度から2名配置される予定です。現在も母子手帳交付時には看護職が面接や電話で支援していますが、10代の若年や未婚、精神疾患等いろいろな課題を抱えている、いわゆるハイリスク妊婦、特定妊婦への支援をよりきめ細やかに実施していきます。これから詳細を詰めていくところです。

安西議員：他区で先行している取組を共有して、母子保健コーディネーターの配置が効果的になるように準備を進めてもらいたい。

次に、通学路カラー舗装化事業について、安心カラーベルトのニーズに対する状況を予算研究会でも確認しているが、区内の新設・補修状況はどうか。

麻生港南土木事務所副所長：今年度の地域子どもの安全対策協議会で要望がありました箇所は、全て年度内に完了するよう実施しています。

安西議員：引き続き、要望に応えられる予算がとられているので、しっかりと対応してもらいたい。

次に、昨年9月の風水害の状況を踏まえて、区内では土嚢ステーションを設置したと聞いている。今後、内水ハザードマップが改定されることで、被害想定される場所が増えると思う。今回の風水害も、日野川でハザードマップの対象ではない地域に浸水被害が出ていたのを確認しているので、土嚢のメリット・デメリットはあるが、地域で、高齢の方など様々考慮して、土嚢ステーションを作りたいとした場合に、それを設置できる仕組みが必要と思う。予算研究会でも水防予算が550万円とられていたので、港

南区も同様に検討してもらいたい、方向性はどうか。

麻生港南土木事務所副所長：昨年、日野川と芹谷川で大きな浸水被害が
出ました。日野川では土嚢ステーションを設置して、土嚢を配布し、
地域から大変喜ばれましたので、そういう箇所は必要だと考えて
います。今後も、地域から要望等がありましたら、場所の選定に
ついて丁寧に地域と話し合い、関係部署と調整を図っていきたく
と考えています。

安西議員：同じ時期に芹谷川も下永谷地域が浸水し、さまざまな対策を講
じたことは認識しているが、状況はどうか。

麻生港南土木事務所副所長：芹谷川の浸水対策ですが、浸水が起きた後に
ポンプの再点検を行いました。また、台風の前には、少し護岸を
上げるかさ上げ工事を行い、土嚢も地元で配布しました。今後は、
新しいポンプを環境創造局が購入すると聞いていますので、来年
度の早い時期に新しいポンプを設置したいと考えています。ま
た、河川の護岸のかさ上げについては、設計は現在完了して工事
契約の途中で、こちらもなるべく早く完了するように進
めていきたいと考えています。

安西議員：来年度、ビッグデータを活用した安全対策の予算が 4,000 万円
とられているが、各区の申請により対応していくと聞いている。
港南区では、ビッグデータを活用した方がよい場所の把握はして
いるのか。

麻生港南土木事務所副所長：土木事務所が把握している情報だけになりま
すが、安全対策協議会のスクールゾーンの意見を踏まえながら、
車の速度を落とす対策など、若干ですが先行して行っています。
今後、通学路だけでなく生活道路も地域から危ないという要望が
あれば、交通安全対策の検討について丁寧に話し合いながら、関
係部署と調整を図り、何かできないか考えていきたいと思いま
す。

安西議員：ビッグデータを活用した安全対策は、手挙げでどんどん進めて
いくと聞いているので、区も認識しておいてもらいたい。

次に、区提案反映制度について、全区で見ると最小 2 件から最
大 20 件の区提案があり、問題意識のある区に提案件数が多いと
映る。この区提案反映制度を、区としてはどのように位置づけ
ているのか。

林区政推進課長：区提案反映制度については、区役所各課や地区担当者が把握した地域の課題や業務上の課題を、まず洗い出しています。その現場の視点から、港南区の場合は、各課で解決策を検討した上で提案しています。その後、関係課から関係局とやりとりをして、最初の入り口のところで解決する案件から、解決しない案件もあります。最終的には、今回6件の区提案に落ちつきました。

安西議員：提案の内容が反映されることが一番重要だと思うが、提案件数が多い方が、問題意識があるように見えるので、ぜひ、日ごろの対策を反映して、局連携の予算をとってくる形を多くしてもらいたい。

次に、公会堂の駐輪場対策並びに消防団器具庫について、状況はどうか。

林区政推進課長：公会堂については、区提案反映制度も活用し、駐輪場を整備した上で、駐輪場から公会堂までのアクセスもスムーズに行けるよう要望しています。

消防小屋についても、バス停を2つに分けて広く使えるようにということと、バス停を2つに分けると消防団小屋の前になってしまうので、消防団器具庫を移転するよう関係局と調整を進めています。

安西議員：消防小屋については、移転後の使い方や消防団の要望もあるので、ぜひ丁寧に進めていただきたい。

瀬之間議員：健康アクションこうなん5推進事業について、横浜健康経営認証の内容はどうか、また、認証を受けたのはどういう事業所どのくらいあるのか。

畑岸福祉保健課長：健康経営ですが、企業の従業員は重要な経営資源という考え方で、従業員の健康づくりを進めていくため、市では健康経営認証制度を設けました。その認証制度に則った取組をしている事業所に、AからAAAまでの3つの認証を行うものです。港南区では今年度、28事業所が認証され、2019年度の認証者数としては市の中で1位になっています。

瀬之間議員：今回の28事業所の中で、栄養士の派遣を希望する10事業所は、どのようなところか。

畑岸福祉保健課長：健康経営を進めるためには、まず経営者の方が健康経営を宣言し、従業員に対する健康増進の取組をしていただく必

要があります。その取組では、食事や運動について事業所内で講座を行うこともあり、その辺を私どもがサポートします。予算上は10事業所ですが、認証を受けたいという事業所があればサポートして、認証取得を進めていきたいと思っています。

瀬之間議員：高齢者元気応援事業について、施設等において飲料水を提供する「まちの給水所」とあるが、どういったところか。

竹田高齢・障害支援課長：まちの給水所は、今年度から試験的に高齢者の熱中症対策のために福祉施設等にポットを置き給水するという形で行っていました。これまでの関わりは、施設では例えば災害のときに地域とどのような連携ができるか心配している、しかし地域の方では施設が認知症など専門的な機関なのでなかなか入りにくいという実情がありました。このたび、給水を通して地域との交流ができるという効果があることがわかりましたので、今回予算立てをして事業として提案したものです。

瀬之間議員：施設等というのは、特別養護老人ホームや老人保健施設か。

竹田高齢・障害支援課長：高齢者の施設は特別養護老人ホーム、老人保健施設、あるいは障害者の施設が9施設、その他に子どもの施設など3施設です。

瀬之間議員：港南公会堂竣工記念式典事業について、令和3年春の記念式典とあるが、日程や内容はある程度決まったのか。

大木地域振興課長：公会堂の共用は令和3年春を目指しています。具体的な日程はまだ決まっていますが、供用開始前に記念式典の開催とオープン時にふさわしい催しを検討しています。

みわ議員：健康アクションこうなん5推進事業について、健康経営認証を受けている事業所へ栄養士を派遣するとあるが、栄養士は具体的に何をするのか。

畑岸福祉保健課長：栄養士を派遣する理由ですが、健康経営の認証を取得する事業所は、従業員の健康診断結果などから健康課題を抽出し、それに基づいた改善の取組を行うこととなります。区内の事業所を回らせていただくと、生活習慣病に関する健康診断結果の数値が高い場合があり、派遣する栄養士から減塩のための工夫などを提示し、それぞれの事業所で取り組んでもらうようにしています。

みわ議員：この栄養士は、区役所の栄養職か。

畑岸福祉保健課長：現在は、区役所の栄養士が出張していますが、事業所によっては土曜の午後や日曜に講座を行ってほしいという話もありますので、休日も含めた形で対応できるように予算計上しました。

みわ議員：区役所の栄養士も業務に出ていくとなると、人数がいる。いま、区の栄養士は何名いるのか。

畑岸福祉保健課長：福祉保健課健康づくり係に2名の栄養士がおり、健康経営認証を受けたい事業所の健康講座を行っています。認証事業所も増えており、将来的には区内事業所の皆さんに認証取得をしていただきたいこともあるので、事業所の求めに対応できるよう、予算措置も含めて対応していきたいと考えています。

みわ議員：健康経営で栄養士を派遣することは本当に素晴らしいことだと思うので、ぜひ継続して取り組み、広げていってほしい。

消防署は24時間か48時間勤務の中で、自分たちで食事もつくっているが、消防署から栄養士派遣の要望はないか。

相馬港南消防署副所長：昔から自分たちで食事を作っており、随分栄養は考えて取り組んできましたので要望はしていませんが、考えていきたいと思います。

みわ議員：こういう栄養士派遣のシステムがあるので、消防署でも活用してもよいかと思う。

次に、出前講座・健康相談について、「生活を見直し、改善した状態を促す健康づくりを推進するための講座」が新規の取組になっているが、どこで誰が実施するのか。

畑岸福祉保健課長：この講座では、生活習慣を変えるためのレッスン帳を使用します。レッスン帳では、行動を変えるために、現在の食事や運動の習慣などの項目をチェックします。また、どこを変えたらいいかを、例えば1カ月間の目標や計画などを記入するようになっており、こうして講座を進めていきます。基本的には、出前講座を受ける方にお配りしてお勧めするのですが、あわせて、保健活動推進員やヘルスマイトの方々にも、このレッスン帳の使い方を知っていただき、広く区民の皆さんに生活習慣を変えていただけるよう展開していきたいと考えています。

みわ議員：町内会やグループで何人か集まったら要請して、出前に来てもらうということか。

畑岸福祉保健課長：健康の出前講座は、従来から、各地域から要望をいただいで実施しています。

みわ議員：これまでも実施しているとのことだが、新規の取組なので、どんどん進めていただきたい。

次に、障害者いきいき生活応援事業ですが、パラリンピックパブリックビューイングの実施とあるが、会場はどこか。

竹田高齢・障害支援課長：まだ決まってはいませんが、パラリンピックは8月25日から9月6日に、NHKが放映することまでは決まりましたので、放映できる会場を検討しています。

みわ議員：大勢の皆さんと一緒に共感できる素晴らしい機会になるし、ラグビーワールドカップのときも大変盛り上がったので、うまく取り組んでいけたらと思う。

次に、健康ランニング大会について、来年1月開催ということだが、会場はこれまでと同様に野庭中学校か。

大木地域振興課長：現在は、野庭中学校をスタート・ゴールにし、主に野庭団地地区を走っていますが、次年度は野庭中学校が閉校になることになっています。暫定的な利用は次年度も可能な方向と聞いていますので、今後、警察や関係機関と調整は必要ですが、現在のコースを基に検討していきたいと考えています。

みわ議員：スポーツ団体や地元、参加者から、何か要望などはあるか。

大木地域振興課長：今のコースは多くの方に親しまれており、今のコースがよいという声は何っています。

みわ議員：ぜひその願いが叶うとよいと思う。

最後に、切れ目のない子育て支援事業について、放課後施設利用の子どもに向けた防災の取組とあるが、災害があったときに子どもたちがどう対応できるかも含め、その施設を管理している担当者の意識が大事と思うが、避難訓練はこれまでも行っているのか。

平野こども家庭支援課長：こちらに関しましては、10月から行われている状況です。詳細は、別途お伝えさせていただきます。

みわ議員：子どもたちだけでどう対応するのか、夜間もいる場所なので、ぜひ親御さんも含めて工夫して取り組んでいただきたい。

梶尾議員：地域子育て応援事業について、育てにくさを感じる子育ての相談というのは、どれぐらい件数があるのか。

平野こども家庭支援課長：育てにくさを感じる子育ての支援ですが、自閉症や知的の障害など、さまざまな発達障害のあるお子さんたちの心理相談や幼児教室を行っています。継続した個別相談だけでなく、発達障害に関する講座も開催し、20名から30名ぐらいの方が参加されています。

梶尾議員：お子さんによって状態に差があるが、しっかりと啓発・相談に取り組んでいかないと、成長したときになかなか自立が困難になる子も多かたりする。子どもの時期にどれだけケアができたかが非常に大きいと聞くので、例えばその子どもたち、親御さんもそうですが、精神的な側面からも補助が必要と思うが、そうした取組は踏み込んで検討しているか。

平野こども家庭支援課長：発達のあるいろいろな相談は、保育園等でも行っており、公開保育で相談等も行っていきますので、そうした取組と連携していくことと、地域子育て支援拠点が18区にあります、そちらでも個別の相談を行っていますので、そことも連携しながら進めていきたいと思っています。

梶尾議員：こども家庭専門相談、DVや離婚、親権や養育費等について相談を実施ということだが、どれぐらいの相談件数があるのか。

平野こども家庭支援課長：DVの相談件数ですが、区ごとの相談件数はでておりません。区役所、横浜市DV相談新センター、男女共同参画センター等、横浜市全体の相談件数は29年度が5,096件、30年度が4,842件となっています。港南区のこども家庭専門相談は、毎月3枠の弁護士相談を設けており、月2～3件の相談があります。

梶尾議員：困った人たちが最初にどこに行ったらいいか、窓口がわからないという声もあるので、この対応をしっかりと進めていただきたい。また、DVの部分でもなかなか表に見えないような、子どもがメンタル的な被害を受けているということもあるので、時代や状況に応じた対応策や受け入れを、どのようにできるか進めてもらうことを要望する。

次に、みんなでつくるふるさと港南事業について、区制50周年のときに区民の皆様にはひまわりを配布したと聞いているが、その成果どうだったか。台風被害等あって、残念だった子どもたちもいたのか。

大木地域振興課長：秋のひまわりプロジェクトという名前で、区制 50 周年の取組として行いました。台風等もありましたが、花が極端に減ったといった連絡は入っていません。区役所の周りにも鉢を置きましたが、台風が来る前には中に入れたりしましたので、特に問題はありませんでした。区民向けには 600 ほど配布し、区民利用施設等でも配布しました。例えば、保育園・幼稚園は 26、小学校は 4、公園愛護会は 63 など、計 138 の団体、施設の皆さんに参加いただきましたので、ひまわりの花が咲く時期が思ったより遅かったところもありましたが、区民の皆様喜んでいただけたのではないかと考えています。

梶尾議員：一市民として、ひまわりがあこの時期に咲くのは非常にいいなど単純に思うが、用意したものは全部皆さんお持ちになられたという事か。

大木地域振興課長：はい。用意したものはあつという間にお持ちいただき、最初 500 用意したのですが、追加で 100 を用意しました。

梶尾議員：今回は区制 50 周年の行事ということだが、今後はまたそういった取り組みはあるか。

大木地域振興課長：毎年、4 月からひまわりの種を配っており、皆様で花を咲かせていただいています。その取組は、引き続き行っていきたいと思っています。

梶尾議員：次に、港南公会堂は令和 3 年春に供用開始ということだが、公会堂が竣工するに当たって講演やイベント、演劇等の計画はあるか。

大木地域振興課長：他区では、式典のときにミニコンサートを行ったり、供用開始後にこけら落としを行った例を聞いています。今後、そうした計画も含めて内容を検討していきたいと思っています。

梶尾議員：令和 3 年というともう迫ってきていると思う。比較的新しい公会堂で、みんな楽しみにしていると思うので、ぜひ区民並びに市民の皆さんが喜ばれる企画を検討していただきたい。

田野井議員：区制 50 周年では、ラグビーではないが、ワンチーム港南区民で盛り上がったと思う。この実績を踏まえ、しっかり次につなげるために、来年から人口減になる状況の中で、今後の港南区のあり方をどのように考えているか。

今富区長：港南区は比較的、企業や商店街など事業所とのお付き合いが薄

いところがありました。区制 50 周年をきっかけに、協賛をお願いしたこともあり、多くの企業を回らせていただいた中で、地域に貢献したいという声もいただきました。

今後ですが、地域のメンバーとして、企業や事業所もあわせて一緒に盛り上がりを広げていくことが望ましいと考えています。区民の皆さんが集まるところに事業所の方も入っていただくことや、50 周年記念事業で協賛の協力をお願いした際に、健康経営の重要性をあわせてお伝えすることによって、実際にエントリーして認証を受けられたという成果も出ています。

また、去年は風水害もありましたので、地震だけでなく、風水害の対策も、小学生や中学生に向けた啓発も絡ませながら充実させていきたいと考えています。

公会堂についても、区民の皆様が待ち望んでいますので、港南区らしいイベント等を考えていきたいと思っています。例えば、有名な方を呼んでくるやり方がいいか、区民の皆さんが発表する場がいいか、地域の皆さんとも相談して作っていきたいと考えています。

田野井議員：まさにサポートだと思う。地域には各団体あるが、どの団体も、子ども会の役員ですら、なり手がいない状況が市全体にあると思う。工業会も様々な業種があるが、各団体が今どんな状況にあり、それをどう区役所がフォローしていくか。自治会町内会には、必ず役所の皆さんが出向き連携を図っているがその考え方など、ワンチームで行った区制 50 周年を踏まえ、人口減と言いながらも地域の輪を拡大していかなければならないと思うが、所感はどうか。

今富区長：団体は様々あるので一個一個ご説明する訳にはいきませんが、担い手不足は、委嘱員や町内会の役員等、ありとあらゆるところで課題になっています。今、港南区が行っているもので、例えば、次の世代の地域の中核になる方を育成する場として学び舎ひまわりがありますが、もう少し地域の担い手の裾野を広げるような活動を行っていきたいと考えています。今度、公会堂が入る建物に区民活動支援センターも入りますので、どう活用できるか考えながら、担い手の掘り起こしも行っていく必要があると感じています。

田野井議員：多くの団体があり、横浜市獣医師会の会長になった太田先生はペットとの共存共栄に向けて3師会プラス獣医師会とか、鶴見では商店街マップに病院や3師会を載せてわかりやすくしたなどがある。港南区も商店街会長がいるので、地域に根差したわかりやすい医師会など、「健康アクションこうなん5」もあるのだから、才能ある人を活用してもらいたい。また、小・中学生でもオリンピックに出られるような、素晴らしい才能の子どもたちも出てきている。国は人生100年時代と言っているのだから、区制50周年が終わった次の100年を見据えて、栄区の人口が減る、港南区もそうだとすることも踏まえ、周りの区境の人たちとの連携も重要になると思う。これらについて、政策部からきた区長として、どう理論的に進めていくか。

今富区長：難しい質問をいただきましたが、行政区は行政サイドが決めているので、例えば、地域によっては両区にまたがっているお祭りや、区境の避難所もありますので、地域の皆さんが、どう顔が見える関係で隣の市や区と一体的に運営していけるか、また、それに対して我々も縦割りにならないで連携し、サポートできればと考えています。地域同士で成り立ちや歴史があり、地域の方々が一体となっているのを行政区で分けて考えるのはよろしくないと思いますので、問題があれば教えていただき、連携していきたいと思います。

田野井議員：区境のところは多くあり、私の母校の桜岡小学校の児童は南区の南が丘中学校に行っており、区境とは言えない状況があることは大事なポイントだと感じている。これを踏まえると、区づくりという位置づけではなく考える必要がある。動物との共生について議員連盟で考えさせられることがあった。獣医師会に補助金を出しながら区外の獣医師に猫の去勢問題を出してトラブルとなり、市獣医師会があるのに何だということがあった。区境は一つ道路を渡れば周りの区みたいなところがあるが、港南区はひまわりコンシェルジュで窓口案内を頑張っているが、どのようなことが窓口として区民から要望があり調整されているか。私は、これからはAIが果たす役割が重要ではないかと思う。市はAIをもっと活用する業種があるのではないか。クレーマーに対しても、AIが交通整理をして働きやすい環境をつくることは、職員

の皆さんにも大事だと思うが、どうか。

今富区長：A Iを活用した案内ですが、企業でも進んでいるのがコールセンターです。機械が自動で答えるパターンもあるかもしれませんが、A Iを活用しデータを検索して人間が答えるパターンがほとんどです。横浜市も全体のコールセンターの中で行っています。あとは、例えば区役所の総合窓口ロボットを置いてしまう。一つ特徴があるとは思いますが、制度のことや、人との触れ合いを求めて来る方も結構いらっしゃるので、単なる案内だけではなく、区全体のおもてなし、やわらかさもあるので、バランスをとりながら考えてみたいと思います。

田野井議員：これからA Iとの関連は切っても切れなくなる。ある企業では、A Iの面接官の方が的確に面接すると聞く。2万5000の情報から瞬時に答えられる。A Iとけんかにならない部分がある。ボタン一つですぐに出てくる時代に入っているので、例えば、地区センターや地域ケアプラザのあり方も考えていくべきである。ニューヨークに行ってびっくりしたが、図書館はペーパーレスで、92も図書館がニューヨークにあり、就職相談や健康相談など様々なことを行っているのを間近に見てきた。男性の平均寿命は82歳、女性は約88歳までになってきたが、平均寿命も大事だが健康長寿が大事で、これに向かった100年時代に向けて、皆で一緒になって知恵を出し合っていきたい。

備 考